

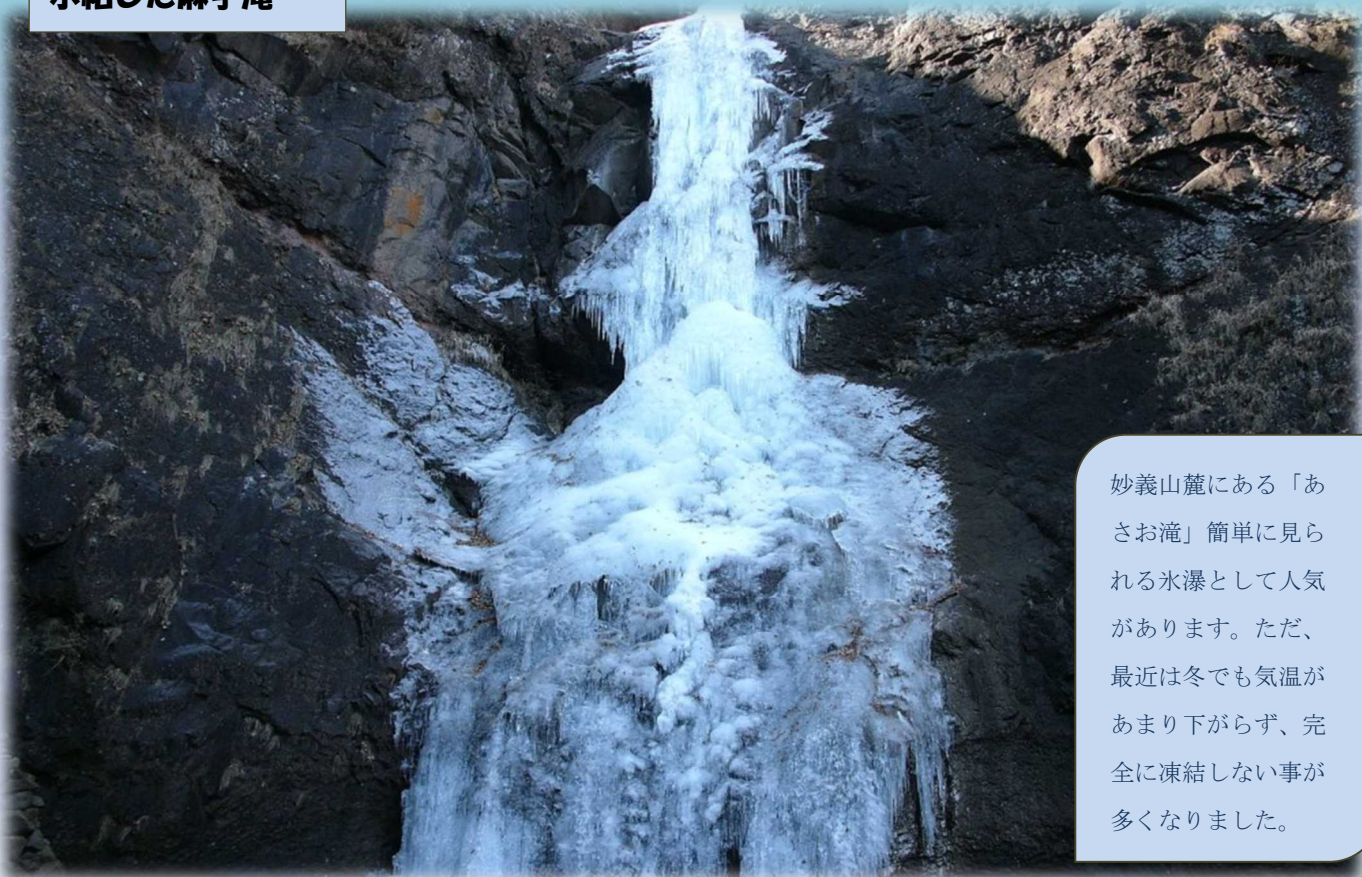
GREEN ニュース

行動する
環境アドバイザーの会

第68号

環境アドバイザー連絡協議会
代表 須永 徹
平成 28 年 12 月発行

氷結した麻苧滝



妙義山麓にある「あさお滝」簡単に見られる氷瀑として人気があります。ただ、最近は冬でも気温があまり下がらず、完全に凍結しない事が多くなりました。

群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 28 年 12 月 20 日現在)新規登録 49 名

第 10 期(登録期間:平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 28 年 12 月 20 日現在、男 207 名女 85 名、計 292 名です。

自然環境部会 62 名 温暖化・エネルギー部会 42 名
ごみ部会 39 名 広報委員会 19 名が登録し活動されています。

目次(執筆者)

表紙画像・文 田中 和夫(高崎市)

P2 環境政策課

P3 須永代表から

P4 温暖化・エネルギー・ごみ部会から

P5 自然環境部会から

P6 地域 太田市 西村さん

渋川市 伊藤さん

P7 地域 前橋市 岡本さん、梅山さん

P8 地域 高崎市 瀧川さん

太田市 西村さん

事務局より「ごみ減量フォーラム」裏方の皆様へ御礼

「目指せ日本一！ ごみの少ない群馬県」をタイトルとして、ごみ部会の方々が企画しているごみ減量フォーラムが11月8日に開催され、多くの方々の協力・支援により成功させることができました。

今回は、群馬県の一人一日あたりのごみの排出量は全国ワースト2位で、その原因の生ごみが多いことに着目し、生ごみの水切りを普及させるために、水切りネットを配布することになり、紙ごみの排出に適した紙ひもも同時に配りました。

フォーラムの準備会では、参加者に配布できるようにチラシを折ったり、紙ひもを切って水切りネットと一つ一つセットにするという大変時間のかかる作業を行いました。

ごみ部会の皆さんが、ごみの減量をやってみようと思ってもらえるフォーラムにしようと準備・企画・運営を行い、また、それぞれ友人・知人へ呼びかけを行ったこともあり、フォーラム当日には数多くのアドバイザーをはじめとして、一般の方や市町村職員の方々が参加されました。

皆さんのこうした努力が花咲き、数年でごみ排出量ワースト2を脱却する日は近いと感じました。

次回も事務局として皆さんと努力していきたいと考えております。本当にありがとうございました。



熱心に意見を出し合う皆さん



チラシ・紙ひも・水切りネットを一つに



全ての方が役割をもって活動（写真は受付嬢）



一般の方の発言も多く、会場が盛り上がりました

マイバッグキャンペーン実施のお願い

レジ袋削減のため、スーパーなどの店頭でマイバッグキャンペーンとして啓発資料の配布・声掛け運動を実施しています。今年度はこれまでに安中市で6店舗、沼田市で2店舗、高崎市で1店舗、富岡市で1店舗、下仁田町で1店舗、太田市1店舗、合計12地点の実施申込みがありました。群馬県環境アドバイザー連絡協議会としての目標は20地点です。まだ、実施していない地区の方々の申込みをお待ちしておりますのでよろしくお願いします。（申込み・実施方法については前号ニュースをご参照ください。）

事務局：松原・古屋

TEL：027-226-2821

メール：ecosusumu@pref.gunma.lg.jp

環境教育支援活動 ”おおた・まちの先生見本市”

群馬県環境アドバイザー連絡協議会

代表 須永 徹

このイベントは、子供たちの教育への社会からのアプローチを主目的にしています。特に環境教育については、なかなか学校では教えきれないところを行政や企業、NPOやボランティアサークルなどそれらの活動を行っている専門家が“先生”となって子供たちに体験しながら学んでもらおうというものです。

われわれ環境アドバイザーとしては、最も得意とする分野で子供たちの環境教育のお手伝い出来る場面であり、そこから発展して最寄りの小学校などでの環境教育支援へとつながれば環境アドバイザー冥利になるのではないのでしょうか。

この“まちの先生”のようなイベントが各市町村単位で開催されるようになれば、エコムーブ号での活動に加えて環境教育支援の新しいアプローチができるのではないかと思います。

幸い、環境アドバイザーに登録されている皆さんは、お勤めの方々よりは自由に動ける時間も多少はあるかと思えます。是非、地域に密着した活動の一つとしてこの“まちの先生見本市”を皆さんの地域でも始めてみませんか。

今年は12月4日（日）太田市立九合小学校で『第7回おおた・まちの先生見本市』として開かれ、72の出展者と5,500名もの参加者でにぎわい、子ども達は環境・ものづくり・ライフスタイルなど沢山の体験しながら楽しみ、学びました。



温暖化・エネルギー部会便り

2016年11月14日世界レベルで温室効果ガス削減を約束するパリ協定が発効した。

昨年のCOP21パリ会議で決定され現在まで94の国が批准し年間約320億トンの温室効果ガス発生を今世紀後半にはゼロにするとの協定です。

一方世界第4-5位のガス排出国である我が国は協定を批准しておらずこの11月にマラケッシュで行われるCOP22にはオブザーバーとしてしか参加できなくなりました。

日本は1970年の公害国会を経て環境技術、法制度整備等環境政策の先進国となってきました。しかし最近では環境政策、気候変動の言葉もジャーナリズムに登場する機会も減ってきたように思われます。

今回の状況は環境後退国を思わせ又昨今の諸事象等は日本国民、国への信頼を損なうとの感が致します。

さて身近なところから考えてみたいと思いますが、昨今の車の使用で100メートルの買い物に徒歩、自転車、自動車を使いますか。

群馬県自動車保有者の80%が車と答えている調査があります、これを健康の為、身近なところからの温室効果ガス削減の為に改善してみましょう。

私達の次、次々世代の人たちにより良い環境を引き継ぐ為に身近な事から行動を始めましょう。

パリ協定発効の日に感想を述べました。

温暖化エネルギー部会長 加藤 幸輝

ごみ部会便り

3Rから2Rへ（今年の「みんなのごみ減量フォーラム」）

先の11月8日に群馬県男女共同参画センターに於いて開催された「みんなのごみ減量フォーラム」は、マスメディアでも取り上げられて話題になりました。とりわけ群馬県の県民一人あたりごみの排出量は全国ワースト2で、そのことを8割の県民が知らないと言う事実は、私たち環境アドバイザーにとっても二重の意味で衝撃的だったのではないのでしょうか？一般廃棄物が全国で2番目に多いと言うだけでも恥ずかしいのに、県民の大多数はその事実を知らないと言うアンケート結果には言葉ありません。

今までは、3Rを推進することによりごみの減量を達成すると考えてきました。県民のひとり一人が分別によるリサイクルを心がけ行動することを通して、ごみの減量の意識を高めリデュース、リユースをさらに推進してゆくことが可能になると考えてきました。

確かに資源物のリサイクルは大変重要なことですが、ごみ減量に直接繋がっていない可能性があります。リサイクルは、一旦はごみとして出される訳です。リサイクルと言うことで安心してしまい、ごみが減ったかのように錯覚しているかも知れません。ごみとして出される前に、ごみを出さない工夫ができればより良い訳です。

環境に配慮した日常生活を送ることで、2Rのリデュース、リユースを推進して、ごみを出さないことがごみの減量に繋がります。

そして何よりも、より多くの県民がごみの問題に関心を持って、自分にとってのごみの減量を考えることが大きな前提となるのではないのでしょうか。

ごみ部会 山田 一朗

自然環境部会だより

2016 年の高山村共有林の作業報告

昨年秋、ほぼ 2 年ぶりに手入れを再開し、今年も 6 回か実施しました。

高山村殖産組合の共有林として管理され、山桜や栗が植林されましたが、人手不足などでやや荒廃しかけていました。県道に隣接し、安全な平地の部分の管理を環境アドバイザー自然環境部会がお手伝いする事になったのがきっかけです。

4 月 16 日：5 人参加

芽が伸び始めたクズのツル切り（根茎の除去）、下草刈りを実施しました。人数が少なかったので全面的処理はできませんでしたが、咲き始めた桜と残雪の山の景観が楽しめました。

5 月 15 日：6 人参加

クズのツル切り、下草刈り、下枝の選定を実施。かなりすっきりして見通しも良くなりました。

7 月 8 日：8 人参加

いつもの作業に加え、背が伸びて花をつけ始めたオオブタクサ（要注意外来生物）の除去を実施しました。クズは木に絡んだ物とその周辺を重点的に除去しました。暑さが心配されましたが、幸い曇りがちで楽に作業できました。

8 月 25 日：5 名参加

クズのツル切り、下草刈り、オオブタクサ除去を実施しました。

クズは定期的に対処しないと難しいですが、やっただけの効果は確実に出ます。

10 月 3 日：9 人参加

いつもと同様の作業ですが、この時期は立派な栗がたくさん落ちており、作業中また作業が終わってから栗拾いができました。またキノコ（ハタケシメジ、又はスミゾメシメジ）も採れ、帰ってから美味しくいただきました。特に栗拾いは好評で、来年も是非実施して欲しいとのリクエストがありました。



掘り出したクズの

11 月 14 日：7 名参加

今回も同様の作業ですが、特に車道に近い側の草や笹の除去を実施しました。ボサボサになっているとゴミの投げ捨てがあるのではないかとその思いから。

事実 PET ボトルや空き缶など十数個が回収されました。

車道からの見通しが良くなりました。

来年は桜の咲く頃に花見を兼ねて一回目を実施したいと考えています。

今年後半からは高崎地区会のメンバー数人も協力していただくようになりました。

現地は標高 700m ほどの気持ちのよい高原です。何回か手入れしていると愛着も湧き、「作業」というよりも「気晴らし」の要素も多いです。近所には県立天文台や道の駅（野菜などの売店・食堂）そして温泉なども車で数分の場所にあり、リクレーションを兼ねて気軽に参加してください。

自然環境部会以外の方々にも是非ご参加いただきたいと思います。自然の中での作業は楽しいですよ！

自然環境部会長 田中 和夫

地域イベント報告

第10回 しぶかわ環境まつりについて

平成28年9月11日(日) しぶかわ環境まつりが、市主催、運営は渋川市環境美化推進協議会、加えて21の協力団体により、子持ふれあい公園で開催されました。

今年新たに、発電から温暖化を考えよう(環境サポートセンター)、選別農薬農法(愛称:しぶせん)、農産物直売、おもしろ自転車、模擬店のブースが設けられました。

更に、ゆるキャラぐんまちゃん、こんにやくコンちゃんが登場し、来場者と写真撮影を行うなど、会場を盛り上げました。

今年は昨年と違って、開催会場が渋川市役所駐車場から子持ふれあい公園に変更されましたが、特に支障もなく又天候にも恵まれ、会場は終始和やかな雰囲気の中にありました。

また昨年に比べて来場者が多数来られました。その要因の一つとして考えられることは、まず開催会場が広いこと、そして会場と駐車場が隣接していたこと、更に、会場敷地内が芝で植栽されていたことなど環境面が手助けしたことが考えられます。

いずれにせよ、それぞれのブースが思考こらして、自分たちが求める環境問題に配慮した取り組みが、今後益々求められるものと感じました。

渋川市 伊藤朝弘



太田地域平成28年11月のイベント

- ① イベント名: 太田市環境フェア
- ② 主催者: 太田市環境フェア実行委員会
- ③ 開催月日: 平成28年11月13日
- ④ 会場: 太田市新田文化会館
- ⑤ イベント内容: 太田市の環境団体や企業による展示
- ⑥ 環境アドバイザーの関わり方: アドバイザー7名が入会している新田環境みらいの会が出展しごみの削減事例、お絵かきマイバック創り、湧水地や絶滅危惧種の紹介、環境クイズ等を実施

太田市 西村 豊



地域イベント報告

前橋市「リユース宝市」 ボランティアに参加しました。

前橋市ごみ減量課による「リユース宝市」が10月30日ヤマダグリーンドーム前橋 サブイベントエリアにて開催されました。リユース（再使用）の気持ちの醸成とごみ減量の促進、を目的としたイベントで、当日は事前に市民から提供された“使えるけれど使わない品物”を1000人の参加者に無料で提供、合わせてフードドライブも設置され福祉団体に提供する不用品の持ち寄りも実施されました。また連絡協議会を中心に延べ14名の環境アドバイザーが事前準備日と開催当日に参加、物品の整理陳列を手伝いました。

イベントでは、推計8,120Kgの回収品のうち6,380Kg(78.6%)がリユースされ、多くの物品が再び活躍することになりました。残った品は740Kg(9.1%)が資源化、1,000Kg(12.3%)が廃棄物として処分されました。

来場者は「自分も不用品を出して欲しい物を探しに来るのが楽しい」「子供用品が本当に助かる」と、また多くの来場者がリピーターでした。“リユース”をお得で楽しいことと感じている方が多く、またこのイベントは多くの子育て世帯から家計の節約として期待されていると感じました。ごみ減量課の方からは「使える物はリユース！ 循環を意識してもらいたい。」とのことでした。

“ごみの減量”に加え見知らぬ人との繋がりを感じる「リユース宝市」だったなと思いました。ご近所での不用品のやり取り等が希薄になった昨今、リユースの楽しみを多くの方に知って頂きたいと思います。ボランティアは体力戦で大変でしたが後片付け後は達成感で終わりました。

前橋市 岡本 美由貴・梅山 さやか



地域イベント報告

西部小学校での子供たちとの花植え行事

11月16日（水）高崎市立西部小学校にて「子供たちとの花植え行事」が開催されました。この活動は「NPO法人 思いをつなぐ会」の葛西さんを中心としたグループの方々が高崎市の西部小学校の全校生徒（約270名）の課外活動として行われている行事に、環境アドバイザー・高崎地区会が協力する形で今年から参加したものです。

今年で3回目ですが、昨年からは全校児童を対象にした行事となったそうです。高学年生が低学年生の面倒を見ることが求められます。プランターに用意された花の苗を植え、最後に赤玉土を入れて整えて出来上がりです。

高学年生が低学年生の世話をしながら花植えが進められ、上手に花が植えられたプランターが作られていきました。高崎地区会のメンバーは腐葉土の準備とちょっとしたお手伝いのみで子供たちの自主性を求める活動となっていました。

花植えが終わって一息ついてから、次は「昔遊び」です。けん玉・めんこ・コマ・ベーゴマ等々、更には金魚すくいまで用意されていました。自分達の子供の頃を彷彿させる「玩具」の遊びを児童達が体験する。児童が楽しそうに遊んでいる姿を余所目に、昔を思い出して積極的？に「活動」している高崎地区会のメンバーも散見されました。

児童が植物を大切にすることを学び、更に昔の遊びを体験する。その活動の中で日頃、なかなか体験できないことに触れていく、そして上級生が下級生への思いやりを学び、全校児童が集う有意義な活動になっていると感じました。

高崎市 瀧川 章



太田地域

地域イベント情報

- ① イベント名：綿打ふれあい祭り
- ② 主催者：太田市綿打地区生涯学習協議会
- ③ 開催月日：平成29年2月18日から19日
- ④ 会場：太田市綿打行政センター
- ⑤ イベント内容：地域の団体の活動発表
- ⑥ 環境アドバイザーの関わり方：

アドバイザー7名が入会している新田環境みらいの会が出展しごみの削減事例、マイバックキャンペーン、湧水地や絶滅危惧種の紹介等を予定

太田市 西村 豊

「編集後記」

会員の皆様寒い冬の季節になりました。お蔭さまで68号が出来上がりました。

新規の会員も49名増えたと聞きました。環境に何かの思いがあり、身近の地域で掃除をしていたのが、県の環境アドバイザーの応募を見て参加された方が多いかと存じます。

この広報誌はこのような方々の活動報告や、これから経験してみたいこと、などを記事にしています。読まれて感想をお寄せください。次号69号は平成29年3月末予定

GN68号担当 原